

情報連絡員報告総括表（令和4年9月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況						
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化				
製 造 業	食料品	1	3			4		2	2		1	3		1	1	2		4			4			4		1	2	1				
	繊維工業		1	2	1	1	1	2	1			3			1	2		3			3			3			2	1				
	木材・木製品			1			1		1				1			1		1				1		1				1				
	紙・紙加工品	1		1		2		2			1		1	1		1		2			1	1		2			1	1				
	印刷		1			1			1			1			1			1			1			1			1					
	化学・ゴム																															
	窯業・土石製品		3			3			3			1	2		1	2		3			3			3			2	1				
	鉄鋼・金属			1			1		1			1				1		1				1		1				1				
	一般機器		2	1	2	1		3				2	1		1	2		2	1		2	1		1	2		1	2				
	電気機器		1			1			1			1			1			1			1			1			1					
	輸送機器		1				1		1			1				1		1			1			1			1					
その他																																
小計		2	12	6	3	13	4	9	11		2	13	5	2	6	12		19	1		16	4		18	2	1	11	8				
非 製 造 業	卸売業	1	1			2		2				2			1	1		2		X		2			2			1	1			
	小売業	1	3	2		4	2	3	3			3	3		2	4		4	2			6			3	3						
	商店街		1			1		1				1			1			1				1			1							
	サービス業	1	3	1	X				5			5			3	2		4	1			4	1		4	1		3	2			
	建設業	1	2	1					3	1	1	3		1	3		1	3			1	3			4			1	3			
	運輸業		1						1			1			1			1				1			1			1			1	
	その他		1						1			1			1			1				1			1			1			1	
小計		4	12	4		7	2	6	13	1	1	16	3	1	12	7	1	16	3		19	1	1	13	6							
合計		6	24	10	3	20	6	15	24	1	3	29	8	3	18	19	1	35	4		16	4		37	3	2	24	14				

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和3年9月～令和4年9月)

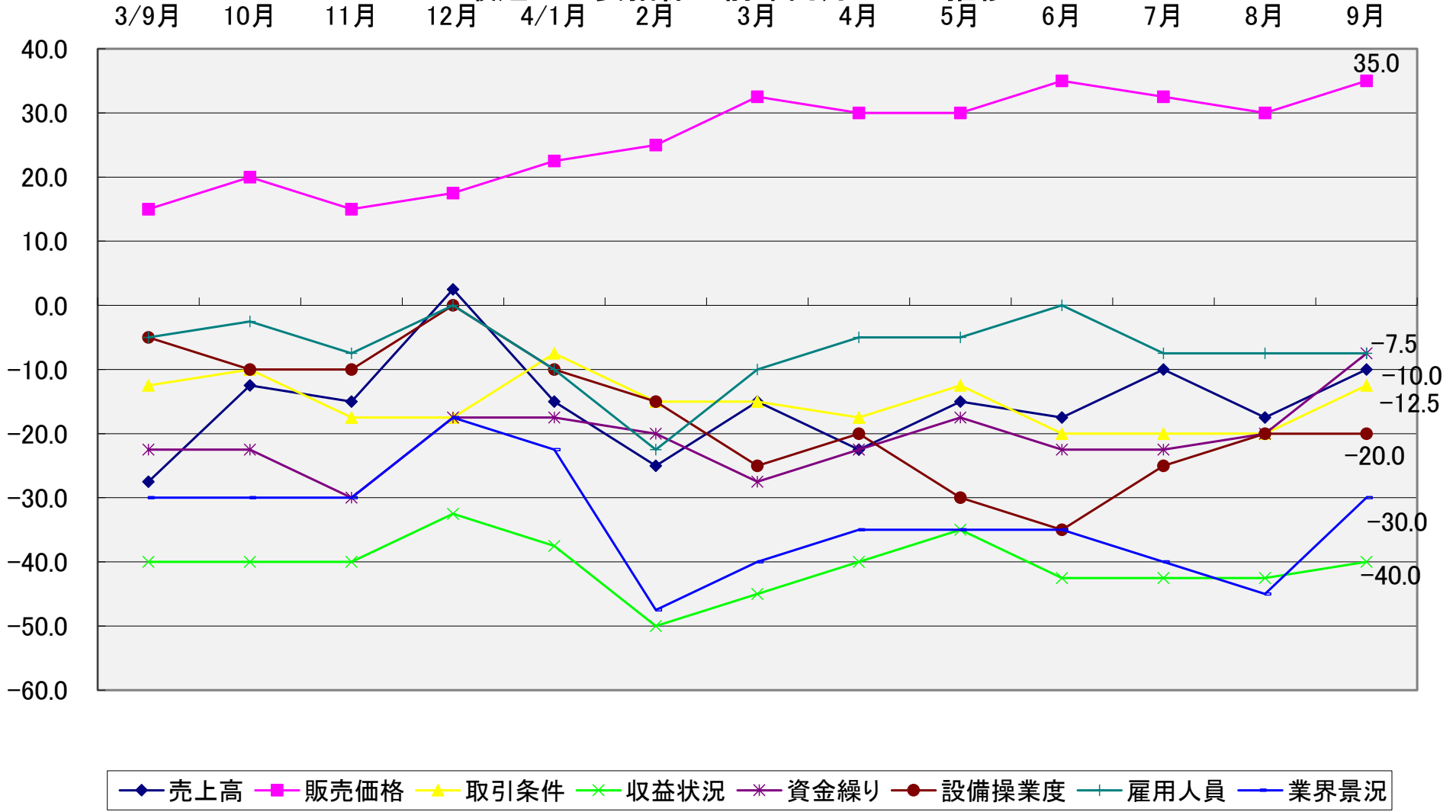
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	3/9月	10月	11月	12月	4/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	増減
売上高	-27.5	-12.5	-15.0	2.5	-15.0	-25.0	-15.0	-22.5	-15.0	-17.5	-10.0	-17.5	-10.0	7.5
販売価格	15.0	20.0	15.0	17.5	22.5	25.0	32.5	30.0	30.0	35.0	32.5	30.0	35.0	5.0
取引条件	-12.5	-10.0	-17.5	-17.5	-7.5	-15.0	-15.0	-17.5	-12.5	-20.0	-20.0	-20.0	-12.5	7.5
収益状況	-40.0	-40.0	-40.0	-32.5	-37.5	-50.0	-45.0	-40.0	-35.0	-42.5	-42.5	-42.5	-40.0	2.5
資金繰り	-22.5	-22.5	-30.0	-17.5	-17.5	-20.0	-27.5	-22.5	-17.5	-22.5	-22.5	-20.0	-7.5	12.5
設備操業度	-5.0	-10.0	-10.0	0.0	-10.0	-15.0	-25.0	-20.0	-30.0	-35.0	-25.0	-20.0	-20.0	0.0
雇用人員	-5.0	-2.5	-7.5	0.0	-10.0	-22.5	-10.0	-5.0	-5.0	0.0	-7.5	-7.5	-7.5	0.0
業界景況	-30.0	-30.0	-30.0	-17.5	-22.5	-47.5	-40.0	-35.0	-35.0	-35.0	-40.0	-45.0	-30.0	15.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いている。今年は8月に雨が多く葉菜類を中心に初期生育が遅れていたが、その後の天候により生育が回復している。また、販売状況においても、コロナウイルスの影響により、お土産物の漬物の販売及び外食産業での需要の減少が続いてきたが、旅行者の増加などによりお土産物の需要がやや回復してきた。一方で、ウクライナ戦争の影響による諸資材の高騰により、製造コストに影響が出ている。
	醤油味噌	毎年10月に政府の輸入小麦の価格改定があり、今回は価格据え置きとなったが、円安に歯止めがかからず、相変わらずコストアップの状況に変わりはない。値上げの話をして大手企業への対応と比べて、中小企業には値上げへの対応が厳しい状況である。PB商品の値上げは思うように進まず、コストアップの中身の話にまで及ぶことがある。来年2月1日から醤油メーカー最大手であるキッコーマンより業務用商品の値上げの発表があった。中小事業者も2回目、3回目の値上げも視野に入れていないと企業努力では吸収しきれないコストアップである。
	製麺	昨年に比べて、かなり売上も戻りつつある。9月末に秋田で3年ぶりに「全国まるごとうどんエキスポin秋田」が開催された。全国より15社が一同に集まり全国のご当地うどんを秋田県湯沢市の皆さんに食べていただいた。「稲庭うどん」は三大うどんであり、その地元の会場で、2日間で5万人以上の方々が登場し盛大に開催された。当組合も「伊勢うどん」を多くの方々に食べてもらい、売上も多くなった。
繊維工業	テントシート	材料の仕入価格の値上げが続いている。
木材・木製品	木材	住宅資材全般の品薄傾向は薄れつつあり、前月比、前年同月比とも弱含み傾向である。
製紙	紙器段ボール	台風上陸や天候不順、各種食品の値上げ、円安、諸外国の経済不況が相まって、国内需要も回復の兆しが見えない。業界でも昨年同月対比で5%前後のマイナスである。尚、日本製紙連合が発表した8月の紙と板紙の国内出荷は176万6千トンで前年同月比2.8%の増加、そのうち段ボール原紙は6.2%の増加で75万3千トンであった。飲料や通販向けが増加した。
	紙・紙加工品	古紙
印刷	印刷	2023年版三重県民手帳は、今回もコロナ禍での製作になった。企画会議や取材等が困難な中、無事完成の運びとなった。情報が解禁となり、10月5日（水）の発売に向けて広報活動を行っている。
窯業・土石製品	伊賀焼	まだまだ業況については横ばいの状態である。ただ、イベント、陶器まつり等には多くのお客様が来場されるようになったが、季節が冬に近づき、またコロナ感染者の拡大が心配である。
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産額は8月と同様で、自動車関連部品、建築関連部品及びガス関連部品は横ばいの状態であった。半導体関連は好調で今年いっぱいこの状況が続く見込みであるが、来年始めは少し減産傾向にあるといわれる。原材料の高騰、エネルギー価格の高騰（ガス、重油、電力料）が続きそれによる収益の圧迫で経営面では非常に厳しい状況である。
一般機器	四日市	実状、業況は急激な円安、半導体不足や紛争の長期化による仕入れ価格の上昇、材料不足が引き続く中、販売価格に転嫁できない企業も数多くあり企業経営に悪影響を及ぼしており、横ばいや下向きの傾向はあっても上向き兆しは見受けられない。
	津市	自動車業界の生産調整により、受注が減ったものがある。また、材料単価の上昇分は売単価に反映できているが、光熱費や運送費の上昇分は反映できず収支悪化となっている。円安の影響で海外に取引先を持つ大企業は利益の恩恵を受けるが、中小企業までは恩恵は受けていないので、材料以上のコスト上昇分を反映しやすい環境づくりの整備を期待したい所である。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
	伊勢	モノ不足、部品不足は続いている上に、円安は業績にマイナスに作用し、原材料の値上げが大きくなってきている。客先への値上げについてはある程度は認めてもらったが、全てが価格転嫁とはならず困っている。底這いの感じが続いている。	
	電気機器	鳥羽	半導体関連の受発注がやや好調になっており、全体の受発注量が増える状況が続くように期待している。
	輸送機器	鈴鹿	鈴鹿市内の大手自動車メーカーでは、生産数挽回のため休日稼働を予定していたが、部品供給の不足のため、その休日稼働はとりやめになった。平日でも一部のラインでは生産調整をしており、まだまだ挽回の見込みが立たない。
小売業	青果	野菜前半：台風や雨の影響で全体的に入荷が少ない。人参、大根は雨の影響で収穫できず高値である。一方、長野産、群馬産のキャベツは入荷が安定している。北海道産の玉ねぎ、じゃがいもも順調に入荷し、安くなってきた。 野菜後半：台風や日照不足でトマト、ミニトマト、なす等が値上がりしている。北海道産の人参は多雨で作況が悪く高値が続いている。一時、値上がりしたキャベツ、レタス、白菜については下旬には値下がりしている。北海道産のじゃがいもは今が一番お買い得である。 果物前半：梨は県内産のさまざまな種類も豊富で味も良く人気である。長野産の「幸水」も順調に入荷している。ぶどう類も長野、山梨、山形から入荷も増えている。特にシャインマスカットの人気が高く、年々栽培面積が増えている。主力の山梨産は露地物がピークで生育が良く質も高い。りんごは長野産の「サンつがる」が安くなっている。 果物後半：県内産の「極早生みかん」は酸味も少ないため、美味しく人気である。和歌山産の種なしも入荷している。長野産のシャインマスカットが露地物の最盛期で味も良く値下がりしてきた。りんごは青森産の「サンつがる」が人気である。	
	自転車	8月31日～9月1日に石川県にて中部自転車ブロック会が開催された。各県で組合事業として「リンリン感謝祭」等のさまざまな催しを行ったものの商品の動きはほとんどない。また、ここに来て海外から輸入する自転車、物品の価格上昇は過去に例がなく、仕入コストの増加に収益を圧迫される状況は当分続くものと思われる。2022年1月～6月の自転車産業の動向が発表された。国内生産台数は前年比23.7%減、輸入台数23.9%減で合計国内向け需要台数23.8%減を示した。また、近年自転車検定試験（自転車技士・自転車安全整備士）の受験者数が減少傾向にあり、その実施方法が見直しされようとしている。	
	電器	夏商戦も落ち着いたところで商品の動きはひと段落しているようである。コロナ、原油高、ウクライナやロシアの影響を受け、家電業界も価格の上昇がそれぞれのメーカー、商品にも影響していてこれからの新商品は大幅に値上がり始めている。しかしその中でも「省エネ」をはじめとする市場に関心を持ってもらえるような提案の出来る商品も出始めているので、商材を上手く利用して消費者へ勧めていく事で商売に繋がっていけそうにも思える。	
	石油	公正取引委員会では、ガソリン等販売業における公正な競争を確保し、違反行為の未然防止や個別事案を迅速かつ厳正に対処するため、「ガソリンガイドライン」を策定している。 今般、公正取引委員会は、ガソリン等販売業を取り巻く経営環境の変化等を踏まえ、法運用の透明性を一層確保し、販売事業者の予見可能性をより高めるため、ガソリンガイドラインの改定案を作成し、9月20日より10月21日までの期限でパブリックコメントを開始した。 公正取引委員会による「ガソリン不当廉売ガイドライン」の改正のポイントは下記のとおりである。 ①総販売原価のより精密な把握、②影響要件の明確化、③より実効性のある事件処理 公正取引委員会におかれては、不当廉売規制の実効性確保のために強く取り組んでいただくことを望む。	
	スポーツ	昔から「スポーツ店を殺すには刃物はいらぬ。雨の3日降ればよい」と言われているが、連休ごとに台風がやってきて、各種大会、各種スポーツイベントが中止または延期になった。（学校の運動会等）スポーツ用品を使用してもらう機会が少ないと売上も上がらない。来月からはそろそろ冬物の採寸が始まる。全国的にも、とある品種に注文が偏り在庫がなく、納期がはつきりしないような事も起こりそうである。	
商店街	熊野市	感染状況が徐々に減少傾向になってきていることにより、観光客も増えつつあり、またイベント等も久しぶりに再開され、少しずつではあるが上昇傾向になりつつある。ただ食品をはじめ原材料の高騰が続いており、消費動向には若干歯止めをかける状況かと感じる。	
サービス業	旅館	夏休みが終わった9月は例年オフの月でもあって、中旬までは閑散としていたが、三連休が2週続く下旬にかけて予約が集中して期待していたが、台風情報によるキャンセルと次週の集中豪雨による道路の冠水等で旅行途中で引きかえされた方もあって、コロナ禍と自然災害の発生が影響し、売上は大きく足を引っ張られた。対前年200%、2019年同月比60%程度であった。	
	警備	コロナに影響でイベントがなく、昨年同様である。	

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
建設業	総合工事業	主要建設資材は引き続き値上げ傾向にある。生コンクリート単価については、今月中に5,000円/m程度の値上げが予定されている。発注者の設計価格への反映状況及び利潤に対する影響について中止が必要である。また、輸送費の値上げも続いており、コンクリート2次製品等の現場着単価の上昇についても情報収集が必要となっている。
	内装工事業	前年同月比でマイナスが続いていたが、9月分は前年同月比でようやく増加となった。コロナや円安、原材料費の高騰等もあり、今後の予測は難しい。
	水道工事業 (亀山)	トイレ等の便器、便座の材料について戻りつつある状況であるが、物によってはまだ入手困難な物もある。給湯器についても同様である。価格については、全ての資材が上昇するばかりで先行きは不透明な状況が続くと思われる。
運輸業	トラック	軽油価格は今期も若干ではあるが、値下がり傾向にあるものの依然高止まりしており、経営を圧迫する要因となっている。9月に入り新型コロナウイルス感染症対策が緩和されたことから、企業活動全体に持ち直しの動きが見られる。電子・デバイス部門については巣ごもり特需が沈静化したことから、足踏み状態となっており、また自動車関連部門については依然半導体不足や部品の供給不足が続いており、輸送量がコロナ禍以前まで回復しない状況が続いている。スーパー小売部門については、10月からの食料品等の値上げ前の駆け込み需要により、売上が伸びたことにより、輸送量についても拡大した。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	県の委託事業で、三重県産麦の商品開発並びにPR活動に取り組んでいく。10月～来年3月まで組合活動を盛り上げて取り組んでいく。
一般機器	四日市	長期化している海外の紛争や円安により、物価、原価が上昇し続けても販売価格に転嫁できず、資材の納期長期化により稼働が停滞したり、資金繰りが悪化する企業も多くみられる。そういった現状の把握ときめ細やかな支援と現在実施されている補助や助成対策の延長を希望する。コロナ対策に関して感染者数が低下傾向にあるうちに感染防止対策と経済との両立が図れるような更なる環境の整備を希望する。
サービス業	旅館	3年におよぶコロナ禍により「雇用調整助成金」の延長が続いているが、業界全体では従業員が離れているため、夏のハイシーズン等、2019年以前の80%程の来客数に戻るとなると、人手がおっつかなくなるような状況である。対策の一つとして、省力化 (DX化・機械化) を推進する事が急務である。そこで、受付が終了した「令和4年度第2回三重県新型コロナウイルス克服生産性向上・業態転換支援補助金」の交付事業を早急に再開してもらいたい。